

サポート

No. 188

令和4年12月2日発行

県教育庁特別支援教育課指導班

祝 大曲支援学校 創立30周年

地域と共に～創立30周年

本校は、今年度創立30周年を迎え、10月1日(土)に、本校体育館で御来賓58名をお迎えして、創立30周年記念式典を挙行了しました。第一部記念式典では、生徒会長の挨拶や来年度から変わる新校章を生徒会役員が主体となって披露しました。

第一部が終了した後の場面転換を高等部の1、2年生が担当し、第二部の記念ステージの司会を高等部1年生が、高等部2年生が「ありがとう動画」の進行と操作を、高等部3年生は伝統である曲耀太鼓を式典バージョンに編曲した『挑』を披露しました。地域の皆様に対する感謝の気持ちと愛校心をもって自分の役割を最後までしっかりと果たす姿に、参加者からは「感動した」との感想をいただき、生徒一人一人の表情は自信と誇りに輝いていました。

来賓の皆さんにお配りする記念品は、中学部がすいた紙を使って小学部の児童が「ありがとうカード」を、中学部は30周年記念ロゴマークを施したペーパーウエイトを、高等部はロゴマークを染色した手拭いを感謝の気持ちをもって製作しました。

また、創立30周年を節目に、全校児童生徒、全職員が一丸となって、記念空撮、記念大運動会、記念七夕花火会、記念大クリーンアップ、記念植樹式、記念秋山台祭と、記念事業に取り組みました。その中でも、全校児童生徒と関わりの深い地域の方々と一緒に行った大クリーンアップは、23.4kgのごみを集め、地域の方々に喜んでもらったと実感できる体験となり、次年度以降も全校体制で実施したいと考えています。式典当日夜には「大曲の花火 秋の章」の企画の一つである「みんなの花火」で、本校高等部3年生がデザインした創造花火が校歌の合唱と共に夜空に舞い上がり、お祝いに華を添えました。

これまでの30年間の歴史の継承と新たな挑みを大切に、次の40周年に向けて、更に地域に必要とされる学校になれるよう、児童生徒、全職員一丸となって歩んでいきます。

(大曲支援学校 教頭 大沢 貴子)



【 新校章披露 】



【 ありがとう動画 】



【 曲耀太鼓 『挑』 】



【30周年記念ロゴ】

閉室記念 道川分教室学習発表会 ～分教室のたからもの～

10月26日、ゆり支援学校道川分教室としての最後の学習発表会が行われました。道川分教室があきた病院内に開設されてからの約20年間の歩みを、懐かしい写真で振り返りながらの発表となりました。

「分教室のたからもの」と題し、分教室の特色ある学習活動や生徒一人一人の宝物「友だち」「お出かけ」「修学旅行」「民謡」について、タブレット端末を指で触れて音を鳴らす、ものまねをする、紐を引く、歌を歌う等、生徒の得意なことや、学習を通してできるようになったことの紹介も兼ねて発表しました。また、ゆり支援学校高等部1年生が、あきた病院内に開設された当時の写真を編集し作成した動画を「分教室ヒストリー」として紹介してくれました。最後は、テーマソング「365歩のマーチ」の歌詞「♪人生はワンツーパンチ♪休まないで歩け♪歩みを止めずに夢見よう」に合わせ、全員で、車椅子ダンスを披露しました。

コロナ禍の中、来賓をお招きすることはできませんでしたが、最後の学習発表会ということもあり、担当医、看護部長、病棟師長等が会場に足を運んでくださいました。また、病院スタッフの方々が卒業生や患者さん達を順次会場に連れて来て参観してくださり、大きな手拍子や笑い声で盛り上げていただきました。このエピソードからも分かるように、分教室は、病院関係者の方々に支えられてこの20年間を歩んできました。

「いのち かがやく 道川」は、来年度、秋田きらり支援学校へバトンを渡します。

(ゆり支援学校道川分教室 教諭 相場 眞里子)



「私のたからものは‘友達’です」



本校高等部1年生が作成した動画

ICT 活用実践紹介

肢体不自由児へのICT活用

県立秋田きらり支援学校 教諭 鈴木 陽

肢体不自由児や重度・重複障害児が主体的に活動したり、役割を果たしたりできるように本校で取り組んでいる ICT の活用方法を紹介します。

①スイッチ教材 (※秋田きらり支援学校HP「教材・教具」参照)



朝の会や様々な活動の中で、PowerPoint 等のスライドをスイッチ教材で動かせるようにすることで、手の力が微弱だったり上腕の可動域に制限がある児童生徒が一人で進行や説明等の役割を果たすことができる。

②Web 会議ツール (Zoom)

移動が制限されることが多い本校の児童生徒は、Zoom を使い、様々な学校の友達や学校以外の施設の方と交流したり、専門家の方から授業を受けたりしている。普段の授業ではできない体験を可能にし、学校と様々なところを繋ぐ役目を果たしている。

③各種アプリケーション (iPad)

・DropTap アカデミック版

発語が難しい子どもの意思疎通の手段として、シンボルを活用するアプリ。様々な人と関わる経験を増やす学習や、朝の会で進行の役割を果たす際に活用し、児童生徒が発信するうれしさを感じている。

・iOAK (アイオーク)

重度・重複障害などがあり、随意的な動きを捉えることが難しい人の反応を可視化したり、わずかな動きによるスイッチ操作を可能にしたりするアプリ。音楽の授業で、児童生徒がまばたきや口のわずかな動きでアプリを操作し、音を出して演奏を楽しんでいる。



スイッチ教材を活用した朝の会

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

「障害者スポーツ体験」事業～鷹巣東小学校のボッチャ体験～

今年度のあきた県庁出前講座「障害者スポーツ体験」事業では、2020 東京パラリンピックの正式競技であった「ボッチャ」を中心に11月末現在で7回実施しています。

10月は北秋田市立鷹巣東小学校を訪問し、親子レクリエーションとして3年生児童とその保護者の皆さんとボッチャの体験を行いました。ボッチャのよさは、運動の得意・苦手は関係なく「誰でも気軽に簡単にできるスポーツ」で、体験する内容に合わせて必要なルールのみを適用できることです。



【転がしテクニックを磨く】

今回はボッチャを初めて体験する児童、保護者がほとんどであったため、大人数で楽しめる「交流コート」を3面設置して、①「ボッチャに慣れる」(ジャックボールに近づけるためのボールの転がしテクニックを自分で見つける活動)、②「転がしテクニックを試合で披露」(児童同士のチーム対戦、児童と保護者が対戦する活動)を行いました。

活動を始める際、児童には「転がし方のコツ」として「転がす(強い転がし、弱い転がし)、回転をつける(曲げる、逆回転)、少し上方向に投げると着地後の転がりが少ない」を伝えました。児童たちはジャックボールの位置を見て、強弱をつけたり回転をつけたりして転がし、テクニックをすぐに見つけていましたが、保護者の皆さんは難儀していました。試合では各対戦を2～3エンドマッチ行い、それぞれのコートから「オーッ」という大歓声や、「オッ、オッ、オッー、エーッ」という悔しそうな声が体育館に響き渡りました。



【保護者も真剣な表情での1投】

初めてのボッチャ体験ということで、スタート時は不安そうな皆さんでしたが、活動が進むと活発な動きが多くなり、最後にはたくさんの笑顔が見られたボッチャ体験講座となりました。

(栗田支援学校 教諭(兼)教育専門監 石垣 徹)

おめでとうございます

「令和4年度秋田県学校関係緑化コンクール」受賞校

○学校林等活動の部

「東北森林管理局長賞」

県立能代支援学校

○学校環境緑化の部

「知事賞」

県立支援学校天王みどり学園

「県教育委員会教育長賞」

県立比内支援学校たかのす校

「県緑化推進委員会会長賞」

県立比内支援学校

「秋田県森と水の協会会長賞」

県立ゆり支援学校

「県花いっぱい運動の会会長賞」

県立大曲支援学校

「県山林種苗協同組合理事長賞」

県立比内支援学校かづの校

